

報 告 書

出張日程

年月日	出張先	用務
自 令和5年9月26日 至 令和5年9月28日	宮城県亶理町 宮城県川崎町 山形県東根市	総務厚生常任委員会 行政調査

令和5年9月30日

報 告 者

内藤逸子



復命事項（1,経過・2,感想並びに意見）

1. 経過（1月26日～28日）

- ①宮城県亶理町 亶理町役場 意見交換
- ②宮城県川崎町 小学校廃校跡地見学
- ③山形県東根市 東根あそびあランド視察

2. 感想並びに意見

亶理町まちづくり基本条例及び亶理町協働のまちづくり計画は、平成20年に制定されている。平成23年に発生した東日本大震災の復旧・復興事業を取り組みながら、まちづくり計画を進めていた。

町民主体で、まちづくりをしていると感じました。

川崎町では、廃校を利用した「スポーツ複合施設 ikuto」を視察した。

土日祝祭日のみの営業。運営状況を聞いた。オリンピック選手（スキー）から実際に子どもへの指導もやっていた。本物のプロからの指導は、子ども自身には大変貴重な体験ではないかと思った。

東根市「あそびあランド」視察。敷地面積4.4haの広大な敷地の中で、子どもたちが、遊びの中で「自主性」「社会性」「創造性」を豊かに育むことのできる場でした。川南町の運動公園の活用に活かせるモデルでした。

以上 復命致します。

報告書

出張日程

年月日	出張先	用務
自 令和5年9月26日 至 令和5年9月28日	宮城県亘理町・川崎町 山形県東根市	行政調査

令和5年10月1日

報告者

乙津弘子

復命事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

1 経過

9月26日 宮崎空港 → 伊丹空港 → 仙台空港

- ・ JAXA 見学
- ・ 宮城県亘理町役場で「地域協働」の取り組みについて説明を。
- ・ 島の海PA スタートイン島の見学。

9月27日

- ・ 川崎町役場で「廃校の利活用について」から「川崎町スナック複合施設「ikuto(いくと)」」の見学
- ・ 山形県東根市「子育て支援事業について」後、屋内型のサクラホールと屋外の「東根英学ビル」の見学。

2 感想並びに意見

- 9月28日。「震災遺構 施設」亘理町蒸気地区を中心とした見学。
- 仙台空港 → 伊丹空港 → 宮崎空港

・ 一番印象に残ったところ

- ① 亘理町役場での「地域協働」の取り組みについて
- 亘理町は「東北一の道の駅を誇りと資料館」の中心

し、このほか、大震災を経験して、町特産のいちじくを備蓄用に作ったことで、このスイーツの裏に君のいちじく説明を記しなおす。

巨理町 WATARU

いちじく

本製品は、巨理町産のいちじくの果汁を使用し、5年間長期保存可能な巨理町オリジナルの備蓄ゼリーです。

2028.4 と書いてあります。早く早速、(3ヶ月ほど)ホテルの冷蔵庫にしまっておいてあげたい。お風呂で常温でして、いちじくもおいしい。

災害の時、スイーツはおいしいです。ゼリーです。インゲキが落ちてきている高齢者にはいい。(me too!)

巨理町役場の備蓄倉庫にしまっているようです。

お菓子のお品出しに、いちじくはいい。川南にはあるのかしら？

・お形県車振市の説明の中には、NPO というのが多く出てくるので、管内には、他に米の NPO まで、自分の NPO まで「子育て支援事業」の市民会館のやり取りで、いちじくがおいしいと思われ。屋内型 (サランボート型) 屋外型 (遊歩道と生け垣) 屋外型 (車振をのび道) ともに NPO に登記されている。

・川崎町の施設利用は、いちじく (お形町) の「民間活用」に、いちじくお形町のいちじく。蔵王スキー場に近いいちじく、スキーのいちじく、いちじく男性が経営する「全天候型アイススポーツ」は雪国の屋内型アイスという感じで、成績も思われ。お形町のいちじく、議長の会議で最後は、いちじく説明で下す。

いちじく

・東日本大震災の時、いちじく (お形町) のいちじく「仙台空港津波」のいちじくお形町、いちじく。

・お形町、視察にいちじく。手配が、いちじく。

いちじく

good
いちじく

報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自令和5年 9月26日 至 5年 9月28日	宮城亘理町・川崎町 山形県東根市	令和5年度総務厚生常任委員会行政調査

令和5年10月 2日

報 告 者 町 議 会 議 員 氏 名 蓑 原 敏 朗 印

復命事項（1. 経過・2. 感想並びに意見）

1. 経過

総務厚生常任委員会の行政調査として亘理町のまちづくり協議会・川崎町廃校利用及び東根市の子育て支援事業を調査研修しました。

【亘理町まちづくり協議会】小泉政権三位一体改革以降のスマールガバメント志向により、自助・共助力を高め公助を減らすため行政主導による地域再編がなされた。

地域ごとの公立施設に職員が常駐し、運営の手助けをしている。地域コミュニティー力は希薄化しており、職員の力に負うところが多いのではないか。

住民負担は無く、イベント開催時に参加費は徴収しているが、本町も同様だが住民の自治意識は生まれているのか見守る必要があると思う。

東日本大震災により防災意識は高まったが、これをまちづくり協議会活動に繋げていきたいという事であった。

【川崎町】既存の小学校が廃校になり、公募により施設を貸し出し利用されている。今回は各種スポーツ体験施設を研修した。初心者の遊び感覚から上級者のトレーニングまで対応できる施設で、元スキーオリンピック選手で、全日本コーチが指導されていた。カフェも併設されている。土・日は利用者も多いようだが、平日の利用は少ないとのこと。

【東根市】子育てするなら東根市だと市長の方針で子育て世代を中心に人口が増えている。サクランボ生産日本一の自然豊かな町で、子どもが遊びを通じて学ぶ大切さをコンセプトに施設運営がなされている。ゴミとけがは持ち帰って下さいう事で、危険と思われることもあえてトライさせているようでした。屋内は3階まで吹き抜けの開放的な遊戯施設を設けている。子供が滑り台で何度も一気に滑っていました。休日には医師会の協力で診療するようになっており、子どもだけでなく多くの市民が診療を受けているとのこと。

屋外に4.4haの遊び場があり、1年中賑わっているとのこと。どこもインストラクターが常駐し一緒にトライしている。

2. 感想ならびに意見

亙理町では大震災復興後のまちづくりに努力されているが、災害支援事業も終了し、これからが本番という状況だ。まちづくり協議会を中心に地域課題を解決し、地域を活性化するには行政の関与も不可欠だが、匙加減は難しいようだ。本町でも他人事ではないが、難しいことではあるが人づくりが大切に思えた。ただ、いずこも同じ高齢化の波に苦慮している。

町内に高速道路PAがあり、スマートインターがある。PAに入口と出口が2カ所あり、ゲートが設けられている。コロナの5類化以後、利用者も増えつつあるとのことで、羨ましい限りである。

川崎町では、町長が最後まで同席され、お互いに勉強しようという姿勢に感激した。廃校利用については、色々やって失敗の話もされた。失敗は素直に認め、お詫びもして次に活かさなければという姿勢に感心した。人口減少基調の中で廃校の活用は中々難しいようだが、特に平日の活用が問題とのことである。

興味深かったのは、町内2つある中学校のうちの一つは三十数人の小規模だが、毎年優秀な卒業生が多く、成績優秀とのことでいつか原因を探してみたい。

東根市の子育て支援は微に入り細に入り支援制度を設けている印象だったが、担当の説明では特に市長が子育てを特化した施策を展開しているとの事でした。いずれはこの子育てが少子化対策にも繋がるのではと感じられました。子育て施設のいくつかをNPO法人が運営していたが、市民代表という感覚で、職員同様に自信と誇りを感じさせられた。子供の楽しい遊びは一定の危険と背中合わせであり、遊びを通じての成長も必要と感じた。

今回研修先の3自治体は、私たちの研修を快く受け入れ、一緒に学ぼうという姿勢を感じました。また、何事もどうやったらできるのかという攻めの姿勢を見受けました。どうすればやらずに済むかという心情が働くが、感心しました。

今回の研修では座して死を待つより打って出る大切さを改めて学びました。

以上復命します。

報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 R 5 年 9 月 2 6 日 至 R 5 年 9 月 2 8 日	宮城県亶理町・川崎町 山形県東根市	総務厚生常任委員会行政調査

令和 5 年 10 月 10 日

報 告 者 職氏名 中村昭人 印

復命事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

【経過】

- 1 日目・・・空路にて伊丹空港経由仙台空港へ。その後レンタカーで亶理町役場へ。座学終了後に鳥の海 PA スマートインター視察後、仙台市内のホテルへ移動。
- 2 日目・・・レンタカーにて川崎町役場へ。座学後に廃校活用施設へ移動。終了後に仙台市へ移動しホテルへ。
- 3 日目・・・タクシー移動で荒浜地区の震災遺構を視察。資料館などを見学し、復興状況などを学ぶ。

【感想並びに意見】

1、宮城県亶理町「地域協同のまちづくり」

亶理町は宮城県の南東部、仙台市から南へ26キロほどの位置にある。仙台市との中間には仙台空港が立地し、町内に2か所あるインターチェンジ (亶理 IC、鳥の海 SIC) からは常磐自動車道を介して首都圏と結ばれる。

- ・「人口」33,145人 (令和5年7月末日現在)
- ・「世帯数」13,297世帯 (令和5年7月末日現在)

亙理町では平成20年4月に制定された「亙理町まちづくり基本条例」の趣旨を尊重し、5つのまちづくり協議会を組織し、協働のまちづくりを推進している。この基本条例は平成18年9月に委員を公募で募り10名を委嘱。1年間で12回のワークショップや勉強会を重ね、条例の素案づくりの段階から住民参加により住民が主体的となって町民の視点で基本条例素案を作成した。

- ・岡垣地区まちづくり協議会（地区人口14,500人）
- ・荒浜地区まちづくり協議会（地区人口2,000人）
- ・吉田西部地区まちづくり協議会（地区人口2,400人）
- ・吉田東部地区まちづくり協議会（地区人口3,400人）
- ・逢隈地区まちづくり協議会（地区人口10,700人）

各協議会では祭りやスポーツ大会、健康講座や奉仕活動などを企画し、地区住民との相互交流を通じて連帯感を高めている。事業費は補助金交付要綱に基づき交付（10分の10）する。補助金は令和5年度で見ると350万円～536万円、逢隈地区が最も多い。各協議会は地区交流センターを拠点としており、センターには行政職員（正職2名）が常駐し、協議会の事務は会計年度任用職員（2名から4名）が担っている。協議会会長の報酬は月額18,000円ほどで任期は3年。また、協議会へは町内会の代表者、各種団体も構成メンバーに加わっている。

わが町の自治公民館制度は10年を迎える。まだ旧分館ごとの壁、また振興班と分館の間に距離があるように感じるが、この夏に各公民館が企画した納涼祭や夏祭りの賑わいと、スタッフと住民のあふれる笑顔を見ていると、公民館制度がより成熟し地域に根差していくのはこれからのかとも思う。今後のよりよい地域づくりのために、この10年の節目に岡垣町の住民主体による協働のまちづくりに習って、今一度、自治公民館制度を見つめる必要があるのではと考える。

2、宮城県川崎町「廃校活用——スポーツ複合施設 ikuto」

川崎町は宮城県南西部に位置し、東を仙台市、西を山形県山形市に接する。町内には温泉やスキー場があり、また面積の8割が森林といった自然豊かな町である。

- ・「人口」8,430人（令和3年12月末日現在）
- ・「世帯数」3,402世帯（令和3年12月末日現在）

川崎町では平成24年に4つの小学校が閉校（令和3年3月に1つ）。その旧校舎の活用方針の検討が平成27年10月より始まった。同年12月には「旧小学校活用事業提案書募集事業」として、全町的なまちづくりと地域住民の意向を尊重した地域の活性化という

視点から各種問題を整理し、活用するうえでの基本的な理念や考え方とともに、有効活用に向けた手続きの基本的な流れや配慮すべき事項をまとめた「旧小学校活用方針」を策定。まちづくり検討委員会と地域から選出された住民で旧小学校の活用を検討した結果、4つの小学校それぞれ、複合型スポーツ施設、レストラン・ショップなどの複合交流施設、また、ワイン醸造蔵としての活用手段が固まり、平成29年4月に各経営主体との間で賃貸契約締結（5年間）が行われた。賃貸料は年額60万円（令和2年～5年は免除）。それぞれの学校は比較的新しく、すべて耐震改修済みである。

・旧川内小学校（最終年度児童数23名）（地区世帯数219）

施設名：KSP川崎スポーツパーク「複合型アーバンスポーツ施設・カフェ」

・旧本砂金小学校（最終年度児童数12名）（地区世帯数115）

施設名：みつけ学び舎ホール「保養・交流施設」

・旧支倉小学校（最終年度児童数17名）（地区世帯数205）

施設名：イーレ！はせくら王国「交流施設・ワイン醸造蔵」

・旧前川小学校青根分校（最終年度児童数7名）（地区世帯数132）

施設名：AONE×MATKA「貸切りキャンプ場・子ども向け合宿所など」

・旧前川小学校※令和4年（最終年度児童数20名）（地区世帯数363）

施設名：旧前川小学校（地域団体）「直売所・食品加工施設・飲食店・コンサートホール」

今回は、座学のあと、旧川内小学校を活用した複合型アーバンスポーツ施設[ikuto]を現地視察。ここでは校舎と体育館を活用しスケートボード、ボルダリング、BMXなどのアーバンスポーツを体験できるように改修。また、次世代アスリートの育成も目指していることから、元オリンピック選手（モーグル）であるスタッフから高度な指導を受けることもできる。プログラムでは子どもたちをどうサポートすると運動能力や危険回避能力など自己肯定感を上げることが出来るのかを主眼にしており、転ぶなど普段から起こりえる危険に対して正しく手をつくことなどを学ばせている。素晴らしい理念のもとに地域に根差した施設になっていると感じた。運営主体は（株）しのぶ建設。

先に述べたように、5つの校舎は比較的新しく（平成の初期に建ったものが多い）、耐震補強もされている。一般的な公共施設の建替え期が築60年後であることから、利活用にあたって大規模改修や老朽化部分の修繕などの初期費用がかからない事はメリットと言える。しかし、賃料60万円と施設が大きいくことで発生する余分な光熱費、将来的な修繕費など、廃校活用にあたっては十分な経営戦略を立てないと経営を持続させることは難しいとも感じた。廃校になった地域に交流拠点を整備するのであれば適正規模の施設を新たに整備することも考えられる。現に、撤退された飲食店もあるとのこと。今後、わが町で廃校を地域資源として活用するにあたっては、以上のような課題を認識し、地域住民のニーズに沿った活用が求められると考える。

3. 山形県東根市「子育て支援事業・総合福祉施設さくらんぼタントクルセンター・あそびあランド」

東根市は山形県の中央部、村山盆地に位置し、東は仙台市、南は山形市・天童市に隣接した温泉のある自然豊かな田園都市。また山形新幹線さくらんぼ東根駅や山形空港が所在するなど県内交通の要衝にあり、先端技術産業が集積する産業都市である。面積は206.94平方キロメートルで、さくらんぼ、りんご等山形県有数の果樹産地となっている。

- ・「人口」47,974人（令和5年5月1日現在）
- ・「世帯数」18,522世帯（令和5年5月1日現在）

東根市では平成20年度あたりまでは50～100名ほどの人口の自然増があったが、平成23年度のころからの人口の増加は転入者の増加による社会増である。その要因としては山形市から車で40分ほどの距離にありベッドタウンとしての立地に適していることもあるが、平成11年度に現市長（80歳7期目）が就任し、さくらんぼにこだわりをもったまちづくりや「子育てするなら東根市」を掲げ、子育て支援に力を入れてきたことも社会増につながっているのではとの説明であった。主な支援策として「東根市定住促進事業助成金」の制度により、市外から転入し定住する人に対して助成金を交付。基本助成額は15万円で、子育て加算、地区加算、中古住宅加算といった加算措置を設け助成している。

座学のあとは、屋外遊具施設が入る、平成17年度に開設した「さくらんぼタントクルセンター」を視察。この施設の建設以前は保健福祉施設の老朽化や機能不足が課題としてあり、また定住人口の増加や市民所得の向上等を背景に、新しいまちづくりの機運が高まっていた時期でもあった。こういった市民が生涯にわたり安心して健やかに生活できるよう保健福祉の拠点施設を求める声を反映し、最初の要望書から約8年をかけて整備された施設である。総工費33億4千万円。施設全体については市が管理し、大ホール及び市民への開放部分については、施設コーディネーター事業としてNPO法人（クリエイトひがしね）に運営を委託している。このNPO法人は東根すこやか・やすらぎの郷建設事業計画（後にさくらんぼタントクルセンターと名称決定）に携わった関係者が立ち上げた法人である。

施設の特徴（6つのエリアがある複合施設）

- 1) 子育て支援エリア
- 2) 保健福祉エリア
- 3) 福祉エリア
- 4) 医療エリア
- 5) 共有エリア

6) 事務エリア

このうち、子育て支援エリアにある「けやきホール (NPO 法人に委託)」では、世代を超えて親子が一緒に楽しむことができるよう、大けやきをモチーフとした大型遊具を中心に、五感を刺激する遊具など、何度来ても楽しめる魅力のある空間づくりがなされている。1階から3階まで吹き抜けで、ガラス張りの壁からは太陽がふりそそぎ解放感があふれ、年齢制限がないため赤ちゃんから小学生や大学生等など、幅広い年代が遊べる施設となっている。

次は、平成 25 年に全面開園した屋外型の遊び場「ひがしねあそびあランド」へ移動。都市公園である大森山公園内に整備されたこの施設では「遊びから学ぶ」という基本理念のもと、自分の責任で自由に遊び、自然とのふれあいを体験できる施設となっている。総事業費は 5 億 8 千万円。

施設の特徴 (遊びの理想郷 あそびあランド)

- 1) 斜面ゾーン
- 2) 幼児広場ゾーン
- 3) シンボルゾーン
- 4) 冒険広場ゾーン
- 5) 農業体験ゾーン

施設のコンセプト

- ・「遊びから学ぶ」「あつまれ！遊びの天才」
- ・さくらんぼタントクルセンターの屋外版
- ・生きるたくましさ、社会性、仲間とあそぶ
- ・禁止事項をなるべく設けない。子どもたちの自主性、創造性を尊重
- ・遊びをつくり、発見し、挑戦する
- ・泥んこ、木片加工、日起こしなどいろいろなことに挑戦
- ・来園した子供たちや親子、地域の人たちとともにつくる遊び場

施設運営は指定管理制度を活用し NPO 法人クリエイトひがしね (タントクルセンターと同じ法人) に委託。委託料は年額 5 千 165 万円。遊びをリードする「プレイリーダー」を常駐させ、子どもたちがやってみいたいことに挑戦でき、安心して失敗できる遊び場づくりをサポートしている。先のけやきホールもそうだが、禁止事項も極力なくし「けがとごみは持ち帰る」といったスタンスでけがも自己責任とし、苦情などはないとのこと。けがをしても、「治ったらまた来るね」というお子さんもいるという。

東根市では子育て支援についてソフト面、ハード面ともバランスよく整備されていると感じた。ハード面でのタントクルセンター、あそびあランドともに NPO に運営を委託することで市民目線での事業が実施され、細やかな心配りの結果、来館者が途絶えることのない市民に愛された施設になっている。「遊育」「共育」を理念として掲げ、ハードは整備して終わりではなく、遊びを通して将来のひがしねを担う子どもたちのたくましい成長を、行政と NPO 法人が一体となって推し進めていることに感銘を受けた研修であった。

以上、復命する。

報告書

出張日程

年月日	出張先	用務
自 令和5年9月26日 27日	宮城県亶理町 宮城県川崎町 山形県東根市	まちづくりについて 廃校活用施設について 子育て支援事業について
至 令和5年9月28日	宮城県仙台市	震災遺構視察

令和5年10月2日

報告者 職氏名 町議会議員 米田正直



復命事項 (1. 経過・2. 感想並びに意見)

1 経過

第1日目 宮城県亶理町

午後2時30分～ 東日本大震災から、8年目に新庁舎が完成し、その3階委員会室に於いて、山田町長、佐藤議長より歓迎の挨拶を受ける。その後、担当より亶理町まちづくり協議会について、懇切丁寧な説明をしていただく。亶理町は、5つの地区から構成されてそれぞれにまちづくり協議会が設立されている。その地区にあった事業が展開され、その事業内容によって(年度予算査定ヒアリング) 補助金が交付されている。

前以て質問事項は、提出されていたため、その回答をしていただく。①亶理町まちづくり基本条例の見直しについて、平成20年度から22年度までの3年間の計画策定をしたが、東日本大震災の発生により、平成23年度から令和2年度の10年間「亶理町震災復興計画」に基づき復旧・復興事業が最優先となったため、見直しは行っていない。②条例に対する説明会等住民の反応は。条例の素案づくりの段階から住民参画により住民が主体となって策定したので、協働によることで、より地域の実情に寄り添った満足度、納得度の高いまちづくりが可能となるため、住民の拒否はなかった。③地域コミュニティと行政区との関係について、基本、町内会(行政区) に加入となるが加入しない方が増えつつある。

④協議会役員の選出について、まちづくり協議会に一任し、町は関与しない。

2 感想並びに意見

東日本大震災は、なお一層の協働、自助、共助の精神を町民に深く刻まれた感がある。また、歴史を重んじ、今日の亶理町を築いている。

人口33,145人、13,297世帯(令和5年7月31日現在)で、我が町と比較にはならないが、まちづくりにおける諸問題は、同様なものがあり、共に解決しなければならない課題も見える。まちづくり協議会は、川南町にとっても大変参考になる示唆を与えていただいた。議事堂を見せていただくが、さすが大きな町、また新庁舎であり、議会公開のシステムが完備されている。

1 経過

第2日目 宮城県川崎町

午前9時50分～ 役場2階会議室において、小山町長、真壁議長の歓迎のあいさつを受け、地域振興課の担当係長から旧小学校施設の概要について説明をしていただく。また、前以てしてあった質問事項について、回答をいただく。平成23年3月の東日本大震災後の平成24年3月31日に小学校4校が閉校となる。①閉校となった各学校の児童数及び世帯数は旧川内小学校は児童数23名、205世帯、旧砂金小学校は、児童数12名、115世帯、旧支倉小学校は、児童数17名、205世帯、旧青根分校は児童数7名、132世帯、旧前川小学校児童数20名、363世帯。②各施設の耐震改修は、全施設改修済み。③使用料等について、全施設一律毎月5万円。ただし、令和2年度以降、本年度までコロナ禍による集客減、電気代高騰に係る事業者への経営支援のため使用料を免除。④中学校の統合の考えは、部活の問題や教育力向上についての論議があり、地区懇談会でPTAと議会の話合いが持たれている。統合の検討もされている。因みに川崎中学校生徒数126名、富岡中学校36名⑤施設改修等への補助金の有無、施設の改修・修繕は事業者が負担し、町からの補助金無。

午前11時00分～ 川崎町スポーツ複合施設（いくと）を見学。

ここの責任者は、元オリンピック選手で、専門的なスポーツ学習の場として利用され、次世代アスリートの育成の場ともなっている。スポーツの力で持続可能な健康な社会を目指すをコンセプトとして、現在はスキーマの日本代表のコーチをされているとのこと。

2 感想並びに意見

川崎町は、当町と比較し人口は少ないが、面積は約3倍である。森林がその8割を占め、その環境を活かしたまちづくりがされている。町政を運営する小山町長は、4期目ということで、熱気に溢れ、担当者をさておき説明をしていただいた。小中学校の統廃合の問題は、我が町において、喫緊の課題であり、統廃合の跡地の活用など大変参考になった。

午後2時～ 山形県東根市サクランボタントクルセンターの会議室において、東根市健康

福祉部こども家庭課課長の歓迎のあいさつを受け、担当より東根市子育て支援について説明をしていただく。人口47,738人、18,530世帯、面積206.94平方km、サクランボ生産日本一を誇り

「佐藤錦」の発祥の地ということである。果樹栽培が盛んで、リンゴ、もも、ぶどうの産地東根市総合保健福祉施設（さくらんぼタントクルセンター）は、定住人口の増加、市民所得の向上等を背景に新しいまちづくりの機運が高まり、市民が生涯に亘って安心して健やかに生活できるよう、保健福祉の拠点施設を求める声があがる。「東根すこやか、やすらぎの郷」構想として位置付け整備を進め、市民会議等で検討を重ね平成11年8月に要望書を提出し、平成17年4月1日にオープンとなった。その間、市民検討委員会が6回ほど開催される。この施設には、子育て支援エリア、保健エリア、福祉エリア、医療エリア、共有エリア、事務エリアがあり、子育て支援センターはNPOに委託して毎月、行政とNPOの定例会議を設け、連携を密にし、円滑な運営を目指している。

午後3時10分～ 東根あそびらんど施設見学

自ら考え行動する「遊び場」、親子の支えあい「子育て支援」、社会性を育む「地域との交流」大人と子どももいろいろな人と「出会う場」、寒さと暑さで「強い体がつくられる場」ありのままの自分でいられる「第3の居場所」という機能を持ち、子ども達が遊びの中から【自主性・社会性・創造性】を豊かに育むことができる場、それが「遊びから学ぶ」子どもの遊びの理想郷(ユートピア)が、この施設の目的とするところである。 都市公園の中の一部で、市が委託したNPOが運営をされている。 NPO職員と市の職員の子育てに対する姿勢が、よく表せている現地での説明であった。

2 感想並びに意見 東根市の市長は、7期務めておられるということで、子育てに対する熱意と心情は相当なものがあることを職員は、強調されている。行政が果たす役割、市民が負う役割を明確にして、市政が実施されている。子育て支援策は、全国どこでもあるような定住促進事業助成金・移住生活応援事業補助金等から、独自の移住世帯向け食の支援事業、生垣設置奨励事業補助金、ペレットストーブ等設置支援事業等の施策を実施されている。子ども基本法を重視され、「子どもは市の宝」という市長の基本姿勢は当町も見習うべき点であろう。

1 経過

3日目 仙台市荒浜地区、閑上地区の震災遺構視察

荒浜小学校が遺構として保存されているが、この日は休館日で、外からの視察となる。津波の脅威をまざまざと見せてくれる。この学校の校長の機転で、地震発生後、直ちに校舎屋上へ避難させ、全員救出されたが、親が迎えに来られた児童にあっては、救出から漏れたとのこと。 閑上地区の津波復興記念資料館にて、被災当時の資料を拝見する。2011年3月11日2時46分地震発生のニュースを役場ロビーで見えていたが、映画のシーンを見るようであった。そのニュースの現場で、その遺構実態をみると自然の驚異を改めて痛感させられる。

2 感想並びに意見

遺構の駐車スペースが広いということは、多くの視察があることを物語っている。この遺構から学ぶことは、今後想定される南海トラフに対応していかなければならない。防災システムと防災意識の高揚を継続して、町民へ浸透させなければならないと思う。

※ 総括 心臓手術して2カ月後に総務厚生常任委員会の行政調査に参加できたのも委員の暖かい配慮と事務局のお陰だと心より感謝申し上げたい。各交通機関の利用の仕方や研修先での御もてなしには、今更ながら社会勉強をさせていただいたことに重ねて感謝申し上げる。2泊3日の行政調査は、大変有意義で、今後の議員活動に大いに役立った。

報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和5年9月26日 至 令和5年9月28日	宮城県亶理町・川崎町 山形県東根市	総務厚生常任委員会行政調査

令和 5年 10月 2日

報 告 者 小嶋 貴子

復命事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

1 経過

9月26日

町の車にて早朝役場出発。宮崎空港から伊丹空港を経て、仙台空港着。

レンタカーにて亶理町役場、鳥の海インターチェンジへ行く。

9月27日

レンタカーにて宮城県川崎町役場へ行き、川崎町複合スポーツ施設「いくと」、山形県東根市さくらんぼタントクルセンター及び東根あそびあらんどを視察。

9月28日

タクシーにて震災遺構視察をする。

昼から帰途につく。仙台空港から伊丹空港を経て宮崎空港着。

町の車にて役場に到着。

2 感想並びに意見

亶理町では各地区に町づくり協議会があり、5年間の行動計画を立てていた。

地引網をひくイベントをする地区、住民と小學校生徒と一緒に運動会をする地区など、自発的にアイデアを出し、それを行政が支援する形になっていた。

また、防災意識の高まりもあり、5年間保管できるイチゴゼリーの開発やそのパッケ

ージを地域に公募して作られていた。

行政と地域が一体となり、町の活性化のための努力をしていることがよく分かった。そして行政と住民の距離の近さを強く感じた。

川崎町では廃校利用の施設を見学した。どんな施設にするかは公募によった。

子供のスポーツ、育成の施設は、県外からの来所者もある人気の施設となっている。

子供の身体機能を高めるため、また健康教育のための深い理念をもったの取り組みに驚いた。

全国的に出生数が減少する中、東根市では人口が増えているという。「子育てするなら東根市」と言われ、移住者が増加している。子供が子供らしく成長できる。また親も子もいっしょに遊び成長できる“共育”“遊育”という理念に感動した。

首長と市の職員は住民の意見を聞き、住民といっしょになって東根市の発展に取り組んできた。住民と行政が信頼し合っていることに驚いた。

震災遺構では、タクシー運転手からたくさんの説明を聞いた。大切な人を突然失う痛み、悲しみはどれほどのものであるか、胸が痛んだ。

川南町にも港があり、地震、津波への対策が急がれる。念には念を入れて、住民の命を守るために細かいところまで話し合っておく必要があると感じた。

全国的に少子化、人口減少が急速に進んでいる。その取り組みを全国の各市町村は必死で行っている。川南町でも“こどもん”をはじめ、具体的な取り組みを行っている。川南町は山も川も海もあるので、体験型の施設を作ることで多く人を呼び込むことができるのではないかと。また、「こどもまん中」の子育てしやすい、子供を大事にする町づくりをすることで、移住者も増えていくのではないだろうか、と思う。

報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和5年9月26日 至 令和5年9月28日	宮城県亶理町、川崎町 山形県東根市	総務厚生常任委員会 行政調査

令和 5年10月 2日

報 告 者

河野 浩一



復命事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

1 経過

9月26日宮城県亶理町役場で14:00~15:30まで亶理町町長、議長、企画課からの説明を受ける。

9/27 川崎町にて川崎町スポーツ複合施設を見学

〃 山形県東根市でサクランボタントクルセンター、東根あそびらんどにて子育て支援事業について研修をした

2 感想並びに意見

亶理町のわたりのいちごは東北一のいちご生産地で知られその多くが「仙台いちご」として流通しておりいちご狩りもできる

昼食に食べた「はらこめし」がこの地の郷土料理とは感動した。

R5年7月の人口33,145人町内2ヶ所のインターチェンジから首都圏へと結ばれており冬も雪が積もること少なく、これから発展していく町だと思われた。

宮城県川崎町は、川内小学校、本砂金小学校、支倉小学校、青根分校、前川

小学校の五小学校を廃校して住民が全施設一律月5万円で借りているがR2～R5年まではコロナによって無料になっている

事業内容は、トレーニング、レストラン、ワイン工場、キャンプ場、農産物直売所等、いろんな事業で活動がなされていた。

山形県東根市

R5. 4. 1 47,738人 さくらんぼの王様「佐藤錦」の発祥の地でありさくらんぼ生産量日本一を誇る大産地であり、他にもリンゴ、桃、ブドウ等も栽培してあった。

他にH27年度子供子育て支援制度がスタートして「ひがしねあそびランド」「さくらんぼタントクルセンター」を建設して子供が喜ぶ施設として利活用され、活気に満ちた拠点と思われた。